

令和3年度 第1回桑名市地域公共交通会議 議事要旨

日時：令和3年8月19日（木） 15：00 ～ 16：30

開催場所：桑名市役所 5階 中会議室

出席者：委員 17名

報道者：1名

1. 委員紹介（交代）

- ・副会長であった藤原委員（前桑名市自治会連合会長）の交代に伴い、本会議会長（岩崎委員）より、梶委員（現桑名市自治会連合会長）を副会長に指名。

2. 「活発で良い議論ができる会議のために。」パンフレットの説明

- ・地域にあったより良い公共交通の未来に向けて、活発で議論ができる会議にするために、地域公共交通会議の役割や仕組みについて、パンフレットを用いて説明。

3. 昨年度のふりかえり【資料1】

4. 市が抱える課題について【資料2】

5. 協議事項【資料3】

- ・桑名市コミュニティバスの路線変更に向けて
- ・令和3年度A I活用型オンデマンドバス実証実験について

【質疑応答及び要旨】

- ・今回の会議では協議して決めなければならない事項はなく、昨年のふりかえりと今年の事業を共有し、市の現状や新型コロナウイルス感染症による公共交通利用者の減少、収入の減収が深刻化している地域公共交通事業者の現状を踏まえて、今後の公共交通施策を検討する目的と認識。

- ・本会議の委員は更新が多く、どこまで議論をして市民が思っていることをこの会議で訴えることができるのか。市予算の一般財源の負担について、令和2年度は1億円ほどの支出があるが、どれくらいの予算規模が容認されているのか。

⇒コミュニティバスへの要望は増加、多様化してきている。多く要望をいただいているのは、市内にはバスや鉄道など基幹交通があるものの、出発地から目的地までをコミュニティ

バスのみを利用して移動したいというものである。基幹交通とコミュニティバス等の組み合わせにより交通ネットワークを検討していきたい。次回の路線見直し案を提示する際には、地域や利用者の声も届けて議論していただきたい。

令和3年度の予算は、令和元年度、2年度と同等の予算規模である。現在のコミュニティバスの維持や路線の見直しを行うために必要な金額として予算を確保している。コロナ禍による運賃収入の減収に加え、特別交付税に関する省令の一部改正による減収が一般財源の支出を増加させているが、今後も地域の移動手段を維持確保するために必要な金額は予算要求していく。しかし、このままの状況が続けば持続可能な移動手段の維持確保が難しくなるため、路線の見直しや新たな技術やモビリティを活用しながら、利用しやすい効率的な交通体系を検討していきたい。

・令和2年2月の路線変更により、長島地区から東部ルートや南部東ルートを利用して桑名市総合医療センターに行けるようになったが、利用者はとても少ない。その理由を考えたところ1日の乗り入れ本数が少なく、待ち時間が長いことから1日ばかりとなってしまう。また、長島ルートにおいても1台で長島町全域を運行しているため、1日4便しかなく利用しづらく、高齢であっても運転免許証を返納したくてもできない。財政的な課題はあるのかもしれないが、交通弱者の移動手段を確保するためにもある程度お金を使ってでも、今後のコミュニティバスの運営を考えてもらいたい。

⇒多度・長島地区から桑名駅や桑名市総合医療センターに乗り入れているが、利用者は少なく、乗り入れ本数が少ないという声もいただいている。乗り入れ本数を増やせば利用者も増えると思われるが、財政面やバスの運転手不足等の課題がある。コミュニティバスだけで移動手段を考えると限界があるため、今年度実施予定のA I活用型オンデマンドバスの実証実験を通じてコミュニティバスの代替性や効率性等を検討していきたい。

⇒トライアル&エラーを前提に、既存地域公共交通とコミュニティバスとが共存共栄して、移動手段の維持確保を議論していきたい。

・A I活用型オンデマンドバスの実証実験を実施するなら、長島地区デマンド乗合タクシーの朝1時間という時間制約を外したり、エリアを広げたらどうか。今後は、デマンドは主流になると思われるので、西部南ルートではなく長島地区デマンド乗合タクシーの検証で実施しても良いのではないか。

⇒コミュニティバスの要望すべてに応えることは難しい中で、違う代替手段を検討しながら他市での事例等を参考にしながら、A I活用型オンデマンドバスの実証実験を実施することとした。

長島地区デマンド乗合タクシーは、朝便の利用者が少なかったことから、委託費用を抑えるために運行を開始し、利用者は少ない状況が続いている。今回のA I活用型オンデマンドバス実証実験は、コミュニティバスの代替性を検証の一つとすることから、時間制限す

ることなく、アプリや電話で予約をして、目的地まで最短ルートで運行する。西部南ルートを現在選定しているが、人口が多く、高齢化率が高く、現在のコミュニティバス利用者が多いものの、バス停の間隔が広く、また1便当たりの運行時間も長いルートであることから、団地内や病院、スーパー、コンビニ等に乗降拠点を新たに設置し、利用者にとっても利用しやすくまたAIによる効率的な運行に期待している。今後実装に向けて、エリアを広げていくことも検討している。

・紀北町に在住している。母が運転免許証を持っておらず、移動するのにコミュニティバスはあるが、病院や買い物に行くのにタクシーを利用する。市内でのタクシーの稼働率はどうのような状況か。安いコミュニティバスに頼るのもわかるが、安くはないが便利なタクシーをもっと利用する、できるような環境にしたらどうか。

⇒県タクシー協会は、北勢地域では、7月に入って、また利用者数が落ち込み、一昨年比で6割程度しか回復していない。オリンピックが始まり、感染拡大による出控えにより、さらに一段と厳しい状況となっている。観光地では、より落ち込みが激しい。休業補償により、勤務を制限しているような状況のため、稼働には余裕がある。

⇒この地域に限らずドアツードアの生活に慣れてしまっており、コミュニティバスへの要望も自宅付近から桑名市総合医療センターに直接行きたいというような要望が出てきているのだと思われる。ドアツードアの移動ができれば良いが、地域公共交通とコミュニティバスとをシームレスに繋ぐ交通体系の構築をしていく必要がある。

・大和地区は高齢化率が高く、自治会でも移動手段の確保は課題であると認識している。色々な地域へ事例研究にも行ったが、コミュニティバスが広域な地域を回って運行するより、地区単位毎に補助金を出して、地区が望むように運行したらどうか。事故の責任問題等があるが、例えば、自家用車で送迎ボランティアを行いたい、地域で貢献したいと思っている人もいる。また、コミュニティバスに限らず、タクシー会社と地域が運行委託しても良いのではないか。この会議では、今現在の検討も良いが、10年後、20年後の検討も必要である。

⇒移動するにあたり、安全安心が大切なことから、バスやタクシー等の緑ナンバー事業者に、まずは運行をお願いしたいところである。移動手段が確保できないような地域においては、自家用有償運送を活用しながら、それでも難しいようであればボランティア運送もある。

⇒今後、益々高齢者が増加する中で、地域の移動手段を総動員していくことが必要と国も示していることから、目的地まで行けるよう様々な移動手段を組み合わせる必要がある。それでも届かない地域は、オンデマンドでカバーしたり、タクシー券を助成したりと検討する必要がある。まずは、今年度のAI活用型オンデマンドバス実証実験で得られることをこの会議において検証していきたい。

・今までの会議で議論してきた次に検討するとした事項が、そのまま議論されていないのではないか。例えば、長島地区デマンド乗合タクシーの分析結果やバス停の最低利用基準の策定、選挙バスや神馬の湯への乗り入れの評価、多度地区でのデマンド運行、マイ時刻表の作成等、できるところから回答や解決してほしい。

⇒この会議を行う必要がなくなってしまうので、事務局には回答、解決をお願いしたい。この会議を通じて、市民と交通事業者と行政、関係者が関係性を高め、より良い地域の公共交通を維持していくことが目的であるので、活発な意見をいただき、その中で対応できないこともあるかもしれないが、この場を調整の場としていきたい。

・A I 活用型オンデマンドバス実証実験の内容が具体化してきた時点では、この会議を開催し議論の場を設けないのか。

⇒現在、システム提供の事業者の提案を受け付けており、8月末には事業者を決定する予定である。委員の皆様には、内容がある程度決まった段階で、会議開催は予定していないが、お知らせ案内する予定である。また、西部南ルートエリアの自治会、住民には、事前に周知・説明する予定である。

・各交通事業者の利用者数や運賃収入等の現況は、どのようなものか。

⇒三重交通(株)は、今年度は、令和元年度比6～7割までしか回復していない。(水谷委員)

⇒三岐鉄道(株)は、北勢線において、令和元年度比8割まで回復。沿線市町からの多大な支援がある中でも赤字が続く路線で、他部門で補填していたが、コロナ禍において他部門も厳しい状況である。コロナ禍においても減便せず運行している。

⇒養老鉄道(株)は、利用者は令和元年度まで増加していた。令和2年度乗降人員は、令和元年度比で8割、運賃収入は7割5分まで落ち込んだ。令和3年度も令和2年度と同程度で推移している。桑名駅自由通路の開通により、令和3年1月16日からサイクルトレインの利用可能駅となった。令和3年7月末現在で274台の利用があった。

・A I 活用型オンデマンドバス実証実験において、北勢線と西部南ルートの接続はどのように考えているか。

⇒北勢線の駅が複数あるので、乗り換えやすくデマンドバスを運行し、シームレスに繋げたい。例えば、桑名市総合医療センターが目的地であれば、自宅から北勢線駅までをオンデマンドバスで、北勢線駅から桑名駅までは鉄道を利用してもらう。

・今回の会議の総括として、コミュニティバス路線変更については、今までの要望や議論等踏まえ、次回会議で案の提示をいただきたい。A I 活用型オンデマンドバス実証実験については、長島地区オンデマンド乗合タクシーの検証を踏まえ事業を進めていただきたい。

5. 報告事項【資料4】

- ・令和3年度自動運転実証実験について
- ・次期選挙期日前投票者へのコミュニティバス運賃無料について
- ・バス停留所安全性確保対策実施状況について

【質疑応答及び要旨】

・期日前投票者へのコミュニティバス運賃無料について、長島地区デマンド乗合タクシーの運賃200円分を無料で良かったか。

⇒デマンド乗合タクシーの1乗車運賃である200円が無料となる。

・前回市長選挙時の期日前投票者へのコミュニティバス運賃無料について、11件の利用数に関しての評価は。

⇒6日間で11件という数字の評価は難しいが、今後継続していくことで利用者は増えていくと考えているため、選挙管理委員会と連携しながら今年度も取り組みたい。

⇒北勢線サンタ電車運行時に、東員町コミュニティバスの運賃無料のチラシを配布しているが、初年度は4件の利用であった。数年かけて令和元年度には、40件の利用であった。11件という数字は少ないが、少なくとも利用者はいるわけで、他の事業であってもコミュニティバスの周知、利用促進になることから取り組む続けることが大事であり、その価値があると思われる。

6. その他

【質疑応答及び要旨】

・市と三重交通(株)が協定締結した、風水害や地震発生が想定された場合に、コミュニティバスを利用して避難行動要支援者を避難させることについて、内容を教えてほしい。

⇒三重交通(株)のコミュニティバスや路線バスを活用して、高台にある避難所へ避難させる内容の協定について、昨年度三重交通(株)と締結している。運行中のコミュニティバスを走らせるだけでなく、三重交通(株)が所有するバスを活用しての避難移送である。